

2017.9.17 年間第 24 主日

あやまちゆるしてやれ

マタイ福音書 18 章 21-35

そのとき、ペトロがイエスのところに来て言った。「主よ、兄弟がわたしに対して罪を犯したなら、何回赦すべきでしょうか。七回までですか。」イエスは言われた。「あなたに言うておく。七回どころか七の七十倍までも赦しなさい。そこで、天の国は次のようにたとえられる。ある王が、家来たちに貸した金の決済をしようとした。決済し始めたところ、一万タラントン借金している家来が、王の前に連れて来られた。しかし、返済できなかったので、主君はこの家来に、自分も妻も子も、また持ち物も全部売って返済するように命じた。家来はひれ伏し、『どうか待ってください。きっと全部お返しします』としきりに願った。その家来の主君は憐れに思って、彼を赦し、その借金を帳消しにしてやった。ところが、この家来は外に出て、自分に百デナリオンの借金をしている仲間に出会うと、捕まえて首を絞め、『借金を返せ』と言った。仲間はひれ伏して、『どうか待ってくれ。返すから』としきりに頼んだ。しかし、承知せず、その仲間を引っぱって行き、借金を返すまでと牢に入れた。仲間たちは、事の次第を見て非常に心を痛め、主君の前に出て事件を残らず告げた。そこで、主君はその家来を呼びつけて言った。

『不届きな家来だ。お前が頼んだから、借金を全部帳消しにしてやったのだ。わたしがお前を憐れんでやったように、お前も自分の仲間を憐れんでやるべきではなかったか。』そして、主君は怒って、借金をすっかり返済するまでと、家来を牢役人に引き渡した。あなたがたの一人一人が、心から兄弟を赦さないなら、わたしの天の父もあなたがたに同じようになさるであろう。」

説教

<心のせまい家来のたとえ>

主人の前では借金を返す期日を延ばすように土下座しますが、ゆるされたと

たんに、自分よりも弱い立場に追いやられている相手から負債分を取り戻そうとします。相手の身になって考えるだけの度量の広さがない状態で、目先の正義をふりかざす、どこからみても自分勝手な男のたとえ話です。さすがに神さまも許さず、罰を与えています。（返済完了までは牢屋に監禁）

<カインを裁き、赦す>

創世記（4章）にはカインとアベルの話があります。カインはアベルを殺し、神さまはその罰としてカインを追放します。カインが神に泣きつくと神はカインを守ると約束をします。

主はカインに言われた。「いや、それゆえカインを殺す者は、だれであれ七倍の復讐を受けるであろう。」主はカインに出会う者がだれも彼を撃つことのないように、カインにしるしを付けられた。創4:15

カインの子孫のレメクはこういいます。

カインのための復讐が七倍なら／レメクのためには七十七倍。創4:24

<神は赦さない>

神さまはカインの弟殺しを許さず、追放という罰を与えます。

<神は赦す>

神はカインに危害を与える者に倍返しどころか7倍返しをするといい、カインを守ります。カインの末裔（5代目）のレメクはなにを勘違いしたのか、カインが7倍返しならレメクさまは77倍返しだと宣言します。

<神は赦さない、でもノアだけは別>

そのあと創世記は5章の系図（時間の経緯？）をはさみ、6章から洪水の話に進みます。ノア以外の人類は神の怒りによって全滅します。神さまの目線からみれば、せっかくカインにチャンスを与えたのに人類は良い方向にはすすまず悪を選んでしまった。もうこうなったら滅ぼすしかないということで

しょう。

主は、地上に人の悪が増し、常に悪いことばかりを心に思い計っているのを御覧になって、地上に人を造ったことを後悔し、心を痛められた。主は言われた。「わたしは人を創造したが、これを地上からぬぐい去ろう。人だけでなく、家畜も這うものも空の鳥も。わたしはこれらを造ったことを後悔する。」創6：5-7

そのとき、ペテロがイエスのところに来て言った。「主よ、兄弟がわたしに対して罪を犯したなら、何回赦すべきでしょうか。七回までですか。」イエスは言われた。

「あなたに言うておく。七回どころか七の七十倍までも赦しなさい。マタイ 18：21-22

このイエスとペテロのやり取りにでてくる7が気になってしまい創世記の引用をしました。創世記でレメクは77回とっていますが、イエスさまはその上の上、7の70倍=490回赦せとペテロに告げます。

<たえず問い続ける>

わたしたちをおゆるしくください。わたしたちも人をゆるします。これは主の祈りです。赦すから赦してという願いでもあるようですし、赦す、赦さないにかかわらず、それぞれ独立して赦してください、赦しますという祈りでもあるようです。

490回ゆるせとペテロに告げるイエスさまですが、実際のところそんなに辛抱できる人はいないでしょう。そんなに赦せるのかなあ、赦すよりゆるさないほうが相手のためになるんじゃないかなあ、こういう考えも必要ですし、じっさい正しい判断になることもあるでしょう。

これでいいのか？これでいいのだ？いったいどっち？たえず問い続けることは安定しません。不安になります。でもそれがわたしたちの主イエスが望むところではないでしょうか。主があなたとともにいてくださいますように。